

## 神戸市会 会議録

2008.04.17 : 平成 20 年都市活力の創造に関する特別委員会 本文  
(一部抜粋)

### 7 : ○委員 (北山順一)

○委員 (北山順一) ちょっと伺いいたします。

今、ご説明をいただきました、この次世代の子供の夢を、あれもやろうこれもやろうとっていっぱい挙げていただきましたが、これそれぞれ本当にやらなければならない、いいことばかりだと思うんですが、これだけでいいのかということを考えていると思うんですね。

例えば、まず子供が将来のことについていろんなことを考えて、いろんな体験をしていくということについて、これはまずやるべきだということについては、もうだれも異存はないと思います。ただ、子供が少ないという今の日本の社会で、親が子供に希望を持つことができるような社会、親が子育てに夢を持てる社会、そういう社会といいますか、神戸をつくり上げていただきたいと、こういうことをまず申し上げたいと思うんです。

それから、その子供たちが今度、子供たちが今ここで説明をいただいたような、いろんなこの社会の仕組みとか、社会の職業とか、そういうものについて、もう一つ一つ体験できるようなことをしてやっていくことが大事だと思っております。

例えば、いろんなこの各区に居場所づくりをつくるんだとって結構な予算をつぎ込んでやっておられるわけなんですが、あれはあれで僕は非常に効果があると思いますよ——いいことだとは思いますが、もっとやるべきことはほかにもたくさんあると思うんです。

先日、僕はこの委員会ではない常任委員会で聞いたと思うんですが、ある長田の話ですが、長田でいろんなところでふれあい喫茶というのがあるんです。その中の1つに、子供が主体になって、子供がコーヒーも沸かし、お茶も沸かし、あるいは卵も湯がきして、地域の人たち、PTAの人たちがそれをけがをしないように、間違わないように、やけどしたりせんよとってということで監視はしますけれども、一生懸命その子供にやらせておる。その子供がそれを来た人たちに配って、その大人、あるいはお年寄りとの触れ合いがそこでいっぱいやられておる姿を見て、私はあれごつつうすばらしいやないかと。トライやる・ウィークで、いろんなトライやる・ウィークを経験するためにも、あのこと自体が神戸市全体で広がればいいのになと、異世代間の交流ということは、もう間違いなくそれはたくさんできると、こういうふうにお思っております。

それからまた職業についても、いろんな職業いっぱいありますね、世の中。そういういろんな多士済々の職業がありますけれども、例えば福祉ということに重点を置いて取り組むとするならば、特別養護老人ホームであるとか、老人保健施設であるとか、ああいう施設へ見学に行つて、ああいう施設で一回参加をしてみると、トライやる・ウィークとして一回参加をしてみると。そういうところをトライやる・ウィークとしてとらえて、参加をしたことがあるのかなのかということをお伺いしておきたい。

例えば、その福祉施設ばかりじゃなくて盲導犬の施設なんかも行って、盲導犬というものがどれだけ社

会の役に立っておるのかというようなこと、盲導犬がなければ今の社会はどうなるんだというようなことも勉強できるようにしてやってほしいと思っております。

それから、もう1つ僕が思いますのは、この学校の、きょうは教育委員会からもおいででございますから、学校の子供さんたちの将来のことを考えるんですから、その子供さんたち——神戸の子供さんたちが、スポーツにおいても、文化においても、伝統文化においても、いろんなものに触れることができるようにしていかなければならないと思うんです。今、少子化の社会で、1つの学校で野球のチームをつくったらサッカーのチームつくれなくなってしまうとか、そういうふうな状態になっておるんですね、今。そういうところで、サッカーしたい子はサッカーのクラブへ入らなければならない、野球したい子は野球のクラブに入らなければならない、そういうふうな状況の中で、地域のお父さん方、お母さん方も含めてですよ、そういうスポーツなんかにも一生懸命協力してますね。あの姿、ああいうのに対して、どんな協力を行政はできるのかなというようなことを思いますし、私はたまたまやっとなことで、三味線の社会があるんですが、私らが全国で募集したら、小学生の子供がいっぱい参加します。いっぱい申し込んできます。すばらしいことをやっています。だから、学校で音楽いうたら、リコーダーか何かという縦の、あれをみんなやってますけれども、伝統文化にも触れるようなことができるように、例えば、神戸にも歌舞伎ではないのかな、あれは——能楽なんかがありますね。ああいう能楽はもう必ず参加をして、参加いうことは見に行ってますよ、私も将来能楽師になりたいという子供が出てくるかもわからない、そういう夢やら希望を持たせてやってほしいということをお願い申し上げたいのと、もう1つ、トライやる・ウィークの現場いうのは、ほかに商店街で商品をつくったり、自分らでつくった商品を売ったり、いろんなことしてますね。あれ非常にいいことだと思っておるんです。思っておるんですけれども、例えば、神戸市の事業の中へ、そういうトライやる・ウィークの現場として子供を参加させておることがあるのかないのか。例えば動物園でも、水族園でも、森林植物園でも、あるいは図書館でも、子供に図書館の裏側はこうしておるんですよ、大人がこういう本を求めてきたとき、こういうふうを探すんですよというようなことも、トライやる・ウィークの中へ入れてやったっていいんじゃないかなと、こういうふう思うんです。

まだたくさん言いたいことがありますけど、ほかの人も言わんならから、この程度にしておきます。

## 8：○永井市民参画推進局長

○永井市民参画推進局長 たくさんご提案いただいてありがとうございます。

まず、異世代間の交流について、私の方から説明させていただきたいと思っておりますけれども、やはり青少年、なかなかコミュニケーション能力がないと。地域でのそういう訓練という——今地域社会そのものが希薄化されてる——家族での機能もご存じのように、核家族化等でなかなか親子のコミュニケーションというのがとれないというような状況もございまして、やはり子供が昔と比べて、やはりコミュニケーション能力がないという、それに携帯やインターネットのそういう問題等も加わってきまして、非常に大きな問題になっておるということはもうご存じのとおりだと思いますけれども、そんな中で、できるだけ先生がおっしゃったような異世代間の交流を促進して、それで子供たちにそういう機会を与えたいという思いがございまして、各区に居場所づくりというのを拠点整備としてやっております。

この居場所、単にハードを提供するというのではなくて、もう見ていただいた先生方もおられますけ

れども、例えばユースプラザのWEST——名谷にある施設、これは拠点の施設としても大きいものが出ておりますし、最近東灘でも——阪神御影の駅前にもユースプラザのEASTができましたけれども、こういう施設は、いわゆる指定管理を受けるそのNPOだけじゃなくて、NPOとその地域のボランティアですね、団塊の世代の方もおられますし、もう少し高齢の方もおられますけども、そういうボランティアの人にはできるだけ協働・協力していただいて、運営に参加をいただいております、本当に多彩な交流ができておる——フリースペースを活用して、そういった交流ができておるといのが事実でございます。こういったものの機会を各区ともにできるだけふやしていきたいと、単に指定管理をしてるNPOだけが運営するんじゃなくて、地域を巻き込んで、やはりそが1つの家庭機能を果たすと、地域社会の機能を果たすというふうな形で運営していきたいという思いがございますし、NPO自身も、やはりそういう運営をしていかないとだめだというふうなことで力を入れてくれておりますので、これはひとつ期待していただいたらどうかと思います。

それと、青少協の活動の中で、やはり学校とか児童館を活用したそういう取り組みの中で、やはり地域の異世代の交流をやっておる活動がかなり出てきておまして、こういったものに我々の方は青少協の運営補助を出すという形でなくて、できるだけ具体的な活動に対して補助を出すというふうなことで、地域による青少年の居場所づくりという事業を17年度からやっておりますけども、そういうものに対しては20万円とか、あるいはその施設を活用した場合は25万円とかいうふうな形で、できるだけそういうものの数をふやしていけたらなというような思いをしておりますので、こういった形で異世代交流の促進というものをやっていけたらなというふうに思っております。

あと、トライやる・ウィーク等については、指導部長さんが来られてますので、学校関係については教育委員会の方から答えさせていただきたいと思います。

## 9：○森本教育委員会事務局指導部長

○森本教育委員会事務局指導部長 今、たくさんのご意見をいただきました。

トライやる・ウィークにつきましても、それから盲導犬のことにつきましても、あるいは文化活動につきましても、学校と地域の関係のことだろうと思います。あるいは、保護者も巻き込んだ関係のことだろうと思います。

学校の大きな役目として、地域の文化、あるいは地域の活動を十分熟知することが学校の大きな務めだと思っています。

今、ご提案のありました盲導犬の施設ということなんですけども、これは小学校であるとか中学校で、福祉の体験的な学習の中で、例えばブラインドウォークをする学校もありますし、盲導犬の世話をされる方々に来ていただくこともありますし、それから目の不自由な方が自分と一緒に犬を連れてこられて——盲導犬を連れてこられて、コンサート形式で歌を歌われるケースも各地で行われてるかと思います。

日常的に盲導犬を子供たちが触れることはなかなか機会がないかと思っておりますけども、学校の教育の中でそういう機会をできるだけ今後もふやしていくというようなことが言えるかと思っております。

それから、もう1つ、スポーツのことなんですけども、先ほどお話をしましたけども、小学校の校区、中学校の校区、たくさんの方のスポーツ活動が行われています。学校の部活動の中でも、そういう場所の関係、

あるいは教員の数の関係で、すべての部活動をつくるわけにはいきませんが、ただ外部でスポーツ活動をしてる子供たちへの配慮というのは、子供たちそれぞれが部活動はないですけども、どここのところまでスポーツ活動に行ってる。野球をこの子はどこの民間のスポーツ活動でやっていると、あるいはこの子はどこで水泳をしてるかということは、すべて学校の方でつかんでいます。大会が生じる場合でも、できるだけその大会に子供たちが参加ができるような配慮の方も、学校の方で行ってるかと思っております。

それから、それぞれの地域の方で文化活動——音楽にかかわれることもたくさんやられてるかと思えます。地域の特性がありまして、先ほど民俗歌舞伎の方の話が出ましたが、子供歌舞伎を実施をしている地域もありますし、あるいは地域の方々が太鼓を練習されてるところに子供たちが参加をするということで、地域に根づいてる伝統文化にも、学校の方ではできるだけ応援ができるような体制をとってるかと思えます。

ところが、子供たちのトライやるとなってくると、販売活動が主になってくるわけですけども、中には文化・芸術・創作活動ということで、そういう活動に参加をさせてもらってる子供たちもいます。

あと、トライやるの現場のことで、市の施設等々というお話があったんですけども、現在、図書館の方にトライやるに行ってる子供たちもいますし、あるいは水族園、あるいは博物館ということで、区役所であるとか、あるいは学校に行ってる子供たちもいます。少数ではありますけども、すべての子供たちが販売活動であるとか奉仕活動してるわけではなくて、そういう市の行政施設等々にもお世話になっているのが現状だと思います。

以上で、お話を終わります。

## 10：○委員（北山順一）

○委員（北山順一）　たくさん質問をさせていただきまして、大変委員長の言うとおりに、簡潔に答弁していただいて、そういう簡潔な答弁でいいんですけども、実際いろんなことをやっておるんですけども、もっと奥深くやってほしいよということを僕は申し上げたいと思うんです。いろんな教育委員会なんかの場合は、特に画一的と言ったらええのかな——あのリコーダーとか、ああいう音楽ばかりでしょう。もっとたくさんの音楽があるんですから、もっとたくさんのものに触れさせるようなことを考えてくれたらどうでしょうかと。

例えば、去年の教育長ではなくて前々回の教育長で西川さんという人がおった。あの人はある小学校の演奏のときに——私はもう知らない、どこかの津軽の三味線のグループが来ておったんです。それを聞いて、あの西川さんが、これはいい音楽になるなと、これを子供に経験させたらいいけど、あれ子供では無理かという話がありましたときに、そんなことはない、子供はいっぱいやると言うたら、それはええ、あれ幾らぐらいするんや言うから、高いのもあれば安いのもある、ピンクリですよ。安かったら子供に買ってやろうと思うけど、どうやろうという話で、そのとき僕の隣に校長が座ってましたから、校長さん、教育長がこない言う間に、さっと言うて買ってもらいと、僕はそういう話をしました。その学校はその後買ったのかどうか知りませんが、買ってないと思ってますから僕は言いよるんですが、そういうふうないろんなあのリコーダーばかりではなくて、洋楽ばかりではなくて、和楽の方にも少し

力を入れてやってほしいなど、こう思っております。

それで、先ほど申し上げましたように、説明は確かに、あれもやっています、これもやっていますと言って、確かにやってるんですが、それをできるだけ多くの人に参加してもらい、多くの子供に参加してもらい、それらの子供たちが大きくなったときに、神戸のこの現場で働きたいと言われるぐらいの現場参加をさせてやってほしいと、そう思うんです。ただ、その現場の姿はよくわからないから、物すごい意欲を持ってその現場に参加したら、大変給料が安いということでやめてしまうという人もおるんですよ。だから、そりゃあいろんな福祉の現場なんか、特にそういうのが多いんですけども、そういうふうなことを考えて、これからも盲導犬も参加してもらってます言うけど、親にも参加してもらってほしいんです。私も盲導犬の——あの目を見えないようにして、自分でここからあそこまで歩けと言われて、歩いたつもりだったけれども全然違う方向へ歩いておった。ところが、犬を連れてたら真っすぐ歩いたというような経験自分もしたんです。だから、大人、親にもそういう体験をしてもらって、社会全体としてそういう盲導犬のあり方も体験をさせるようなことをしてほしい。子供のときから体験しておれば、さらにもっといいだろうと、こう思います。だから、そういうことについてのトータル的な意見を1つだけ聞いておきたい、そういう意味について。

それから、永井局長もおいででございますから、一言伺いしておきたいのは、この都市の将来の都市活力の創造に関する次世代の育成と、こう言っておるんですが、この次世代の育成に対して、神戸市トータルで、市民参画だけではなくて、教育委員会だけではなくて、トータルでこういう次世代の育成のための予算だと言えるものが幾らぐらいあるのかなと、そういうのを探し出したことはあるのでしょうか、積み上げたことはあるのでしょうか。あれば説明してほしいし、なければしてほしいと、こう思ってます。

以上です。

#### 11：○森本教育委員会事務局指導部長

○森本教育委員会事務局指導部長 先生の方で、今、お尋ねの件ですけども、音楽の関係ですけども、今、洋楽ということだけではなくて、学習指導要領には、和楽器の導入の方も来ていますので、例えば小学校であれば、3年生で——もうよくご存じやと思いますけど、ソーランですよ——和太鼓を使うというようなこともありますし、それから三味線を使うというようなことで、各学校の音楽の時間に随分と導入をされています。学校自身が和太鼓を持ってる学校もありますし——なかなか高価なものですけども、そういうことで、洋楽だけではなくて、和楽器も今現在導入されています。これは広がっていくだろうと思っております。

それからもう1つ、保護者の方ができるだけ学校の方に参画ということで、これは学校の公開、1日のときもありますし、1週間連続もありますし、学校の現状に応じて、できるだけ保護者の方に見ていただくと、これはもう学校の大きな務めだと思います。学校の情報も随分と保護者の方に伝えるようになってきました。いろんなご意見をいただく中で、子供たちの活動、発表してる場面もありますので、これからもできる限り保護者の方も学校の方に行っていただいて、学校の行事を体験していただくということも進めていきたいと、そんなふうに思っています。

以上です。

**12：○永井市民参画推進局長**

○永井市民参画推進局長 青少年の関係の予算でございますが、中期計画を立てておる事業数でございますが、255の事業がございますけれども、これは建物の建設、運営も入ったものでございますが、予算額として、平成19年度で256億円の事業費でございます。

それから、私ちょっと先ほどの答弁でちょっと間違ったことを言っておりました。ユースプラザEAST・WESTの運営については、これは指定管理ではなくて、施設を使用貸借させまして、自主運営をNPOにさせていただいております。補助金を出して自主運営をしていただいております。

そのほかの施設については、施設を神戸市の施設でございまして、これは事業委託をしておるということで、指定管理ではございませんので訂正しておきます。

以上でございます。

**13：○委員（北山順一）**

○委員（北山順一） 要望だけ申し上げておきます。

次世代の育成ということについては、もう非常に大きなテーマですし、一番大事なテーマだと、こう思っております。だから、この次世代の育成ということについては、全力で取り組んでいただきたい。これはもうどの局ということではなくて、神戸市トータルで全力で取り組んでいただきたい。

子供は神戸で教育を受けたら、神戸で育ったら、神戸ほどすばらしいまちはないと言われるようなまちにしてほしい。このことを申し上げておきたいと思っておりますし、教育委員会もいろいろ太鼓もやっているところあります、和楽器もやっているところがありますと言うけれども、少ないと思うんです。少ない、もっと学校数もふやしてほしいし、そういう、例えば工夫して、尺八でも尺八そのものを買えば大変高いんですけども、あれ、水道のビニールパイプを切ってやったら、尺八と同じ音が出るというて、本当に出るんですわ——尺八と同じ音が出るんです。ああいうのをもっとたくさんつくって、尺八のけいこさせたっていいと思いますよ。だから、そういうふうなことも含めて、僕は教育委員会頑張ってもらいたいと思っております。この子育ての中心はあなた方やと思っておりますので、どうぞ頑張ってくださいようお願いします。

以上です。